

READ TANK B program

『床の間』

* 著者：太田博太郎

* 著者profile：東京生まれ。東京帝国大学工学部建築学科で建築史を専攻し、1943年、東大助教授に就任。1960年教授。1973年退官後、九州芸術工科大学学長。

日本建築史のほぼ全領域を研究。日本の住宅の歴史を体系化した『日本住宅史』は、今でも研究者の定本になっている。また、木曾妻籠宿の復元保存など、文化財保存修理事業にも尽力した。『日本建築史序説』は日本の古代から明治時代までの建築の歴史を広い視点から捉えた名著として評価が高い。また「大仏様」「禅宗様」の用語を提唱した。

法隆寺の修復や、薬師寺・平城宮の復元にも尽力した。また、庶民住宅である民家の研究を進めた一人。

著書：日本建築史序説／南都七大寺の歴史と年表／歴史的風土の保存／日本建築の歴史と魅力

* 出版年：1978（初版）/2008（再版）

1、本のテーマ

日本住宅の象徴としての床の間の「なぜ」成立したのかを追求する。歴史の変化の中であって、単に歴史的事実を知るといふ事以上に、どのように変化し、それはなぜかという変化の過程を生き生きと表現することを目指す。

2、各章の概要

①：押板-床の間の前身-

共に絵を掛け、花を飾るといふ機能、造付け。
床の間：成立は江戸時代、間口一間、奥行半間
押板：奥行きが浅く、背後の壁に絵が描かれる。
飾り方も押し板の方が華やか（3幅の掛け軸など）p20
成立は南北朝、室町初期（日本の住宅が変化する時期）

②：住宅平面の変化

平安時代の寝殿造りでは建物内部が仕切られ小部屋に分かれる事がなかった。行事ごとに設えを帰る→南半分は行事の場、北半分は生活の場として、個室に分かれる。
（鎌倉時代を通じ、室町初期にかけて変化）

③：押板はどのように変化したか

（定説）伊勢貞丈「仏壇起源説」・・・室町時代には禅宗が重んじられ、禅家の風俗が武家に入った。（←実際は仏壇の成立は押板成立以降）
もともと壁に仏画を掛け、台に三足具をおいて拝んでいた風習に+おびたしい数の宗元画の伝来。これが軸装であったために鑑賞する場所として押板の必要性が生まれた。

④：接客空間の独立

押板の成立→珍しいものを客に見せる→会所で行われる。寝殿造りでは会所はなくその時々によって設えを変えていた。その後飾りがさかんに行われる事になり、独立した部屋が成立。
唐様飾の流行（鎌倉末期、南北朝）→座敷飾のための空間→押板、違棚の成立*違い棚、書院も元は移動できる棚、机であったが、飾るといふ機能が大きくなる過程で造付けになる

（押板と同様に）

上段→畳が敷き詰めになると身分の差を高さで表すようになる。（それまででは畳の大きさ、縁の模様で変化）

⑤：押板から床の間へ

16c 茶室には床の間、座敷に押板。

なぜ、茶室に床の間ができたか？→茶室は接客空間であるので、本来は上段、押板が備えられるべき。→広さが4畳半になると上段が縮小「床」になる。→同時に押板が圧縮され、奥行きが0になり壁が代役をする。

（上段と押板が縮小され合体してできたもの＝床の間）

⑥：茶室の成立と床の間

草庵風茶室の成立→千利休による。土壁、小さな窓、床の間←押板のように豪華に飾るのではなく、質素に花と掛軸（貴族住宅・・・開放的、庶民住宅・・・閉鎖的）。利休は堺の町人であり、書院造り（武家、格式）に対する田園的であるが精神的には都会的なもの。

当時は③のように座敷を豪華に飾る事が流行、同時に草庵風建築の伝統があった→武家住宅への草庵風茶室の影響＝書院、鎖の間（一方で正式の接客空間である広間は格式が重んじられる。押板が形式的に採用される事も。）茶室はその後の貴族住宅へ影響を与える事を考えると、下から上へと影響を認められる希有な例。

⑦：床の間の性格の変化

座敷飾りの定型化・・・押板に対する上座の位置が変化。桃山時代には上座は押板の前←おそらく信長によって主室に上段、押板、違棚、付書院、帳台構を揃えて權威の場を演出するようになる。←定型化

同時期、押板が変わって床の間が座敷の飾りとして書院造りに入っていく。（押板：飾る設備→權威の道具、床の間：上座→飾る設備→格式？）

→江戸にはいり儉約が進められる（一定の生産性と生活水準の向上のため）。+草庵茶室の流行→住宅から障壁画や派手な飾りの押板でなく床の間へと変化。装飾の主体が軸と花へ（季節、会の主旨によって変化する。）→床の間のある部屋とない部屋の差が増大。床の間が格式的なものへと変化

⑧：現代における床の間

床の間の格式化、戦後の住空間の狭さ、接客方式の変化→床の間の形の変化。しかし都市化が進み、自然と遠く隔たる中で絵を飾り花を行ける場所が必要とされる。形の変化、名前の変化はあれど、日常の中で絵画や花を鑑賞するという目的が住宅に取って必要である以上、自然と新しい床の間は生まれるだろう（著者）

3、疑問点、議論のトピック

- * 現代の住宅建築においてすぐれた「床の間」を提示しているものはあるのか？
- * 床の間と風景の関係（遠景・・・軸、近景・・・花）
- * 格式化の問題、意味がスライドしていく事をどう考えるか。